

# かかみがはらの埋文

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 創刊号



東山遺跡全景/手前の東斜面に5基の窯跡が見える。

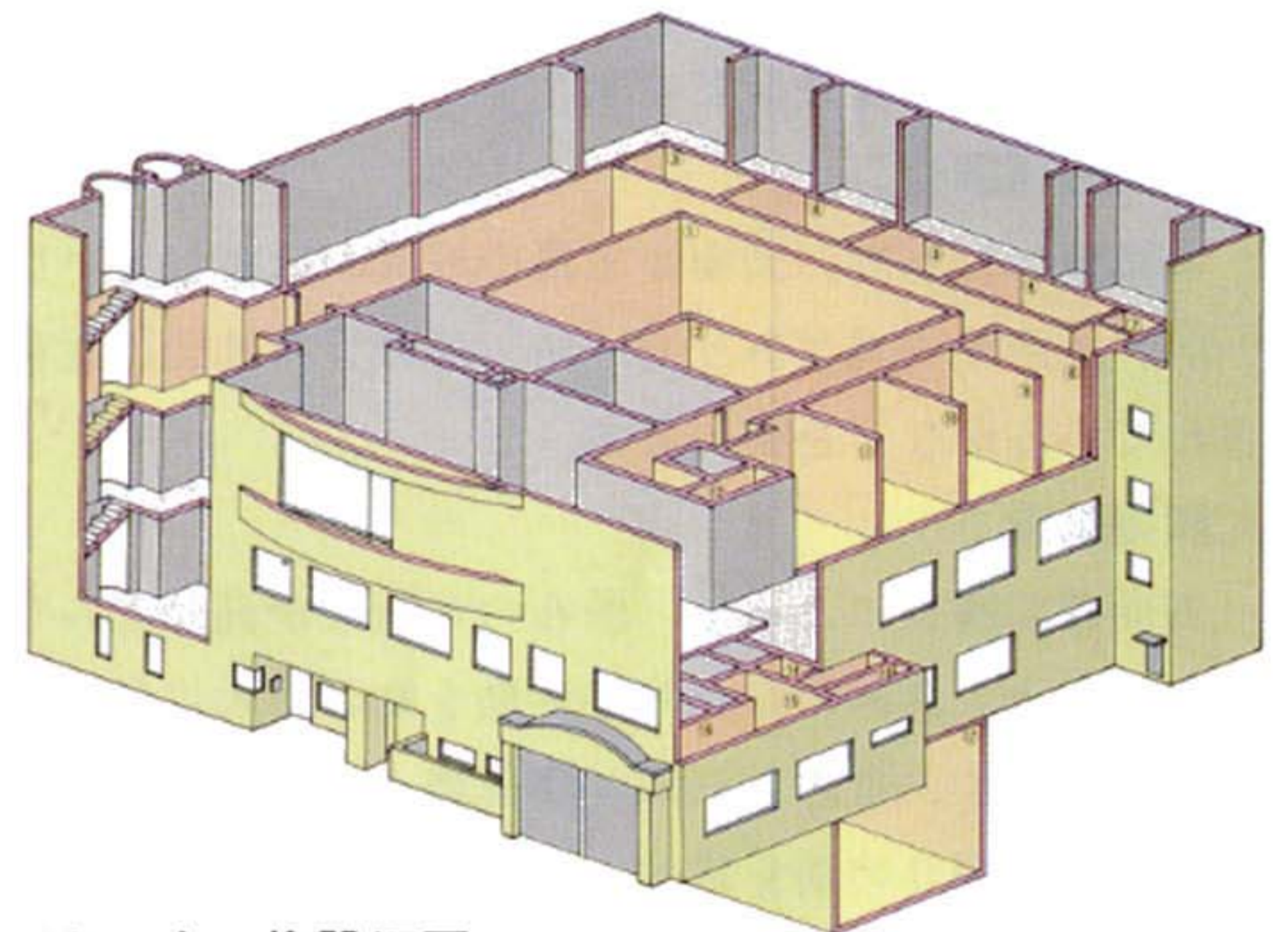
## ごあいさつ

新しく「かかみがはらの埋文」として市内の埋蔵文化財についての楽しい読みものを刊行することになりました。その創刊号をお届けします。

私たちのふるさと各務原市は埋蔵文化財の宝庫です。たからの山ならぬたからの里です。遠い遠い大昔の人たちがこのなだらかな原野を開拓して、住みよい里づくりに汗を流し、時には血を流しての必死の努力の結晶です。その遺跡が、遺物が、長い間土の中に眠ったままになっています。このセンターだよりはそういう遠い大昔の人たちの貴重な埋蔵文化財の紹介・解説・話題などを楽しい話として提供しようというものです。また、埋文の意義をご承知いただき、埋文保存の大切さをご理解いただくためのものです。

ご愛読を願うと共に、市民の皆さん方の間に「このうるわしきふる里かかみがはら」を大切にする精神的風土を育てていただくよすがにしたいものだと思います。

教育長 水野定之



### 〈センター施設概要〉

- 竣工:1991年7月
- 敷地面積:5625m<sup>2</sup>
- 埋蔵施設延床面積:1120.93m<sup>2</sup>
- 併設施設:中央図書館、視聴覚センター
- 主要設備:(地階)地下収蔵庫 (1階)荷解室・木器処理室・水洗室 (3階)展示収蔵庫・特別収蔵庫・第1～3整理室・フィルム保管室・写真室・研究室・資料室・事務室



## 埋蔵文化財包蔵地確認

### 包蔵地確認のしくみ

埋蔵文化財調査センターの仕事といえば、まず「発掘調査」を連想される方がほとんどだと思います。では、発掘調査の準備が整うまでの間に、予備調査や交渉などの大切な仕事があることをご存知でしょうか。

発掘調査は、遺跡のある土地に開発計画が立てられることに端を発します。そこで、開発か遺跡の保存かが問題になってくるわけです。各務原市では、この問題をできるだけ円滑に調整するために、図1のような仕組みで確認と協議を実施しています。

土地の売買や開発の計画が作られる前後の段階で、埋蔵文化財所在についての確認申請が出されるので、「表面確認調査」から「試掘調査」を経て、その存否を確認します。もし発見された場合は、十分な協議を繰り返しながら、解決策を見出していきます。埋蔵文化財は大切な文化遺産ですから、できるだけ現状で保存していけることが望ましいのですが、やむを得ず壊さなければならないときに発掘調査という方法を取り、記録による保存で対応を図るわけなのです。

図1の数字は、平成4年度の実施件数です。保留となっているものは、翌年度に協議がまたがったもの、若しくは用地売買に伴う場合で、その土地の利用目的が定まっていない物件などです。

#### <表面確認調査>

申請地へ行って、表面に土器や石器が散布していないか、地形から見てありそうか、遺跡分布地図に記載されているかなどを調べます。

#### <試掘調査>

表面確認調査によって、所在の可能性が高いとみなされた場合、遺跡の広がりや性格を知るために試掘調査を行います。その方法は、調査地点にトレンチと呼ばれる試し掘りの溝を設け、遺跡が営まれていた時代の地面まで注意深く掘り下げることによって、住居の跡などの痕跡を探します。

### 包蔵地確認の目的別内訳

平成4年度の内訳は、図2のようになります。一番多いのは鶴沼・前渡・蘇原地区を中心とした砂利採取事業に伴う場合で、この傾向は各務原市の特徴です。次いで、用地売買やマンション・コーポなどの共同住宅建設が並び、あとは店舗建設が目立ちます。

前年度と比べて、全体にやや減少しています。

図1 埋蔵文化財包蔵地確認の仕組みと件数

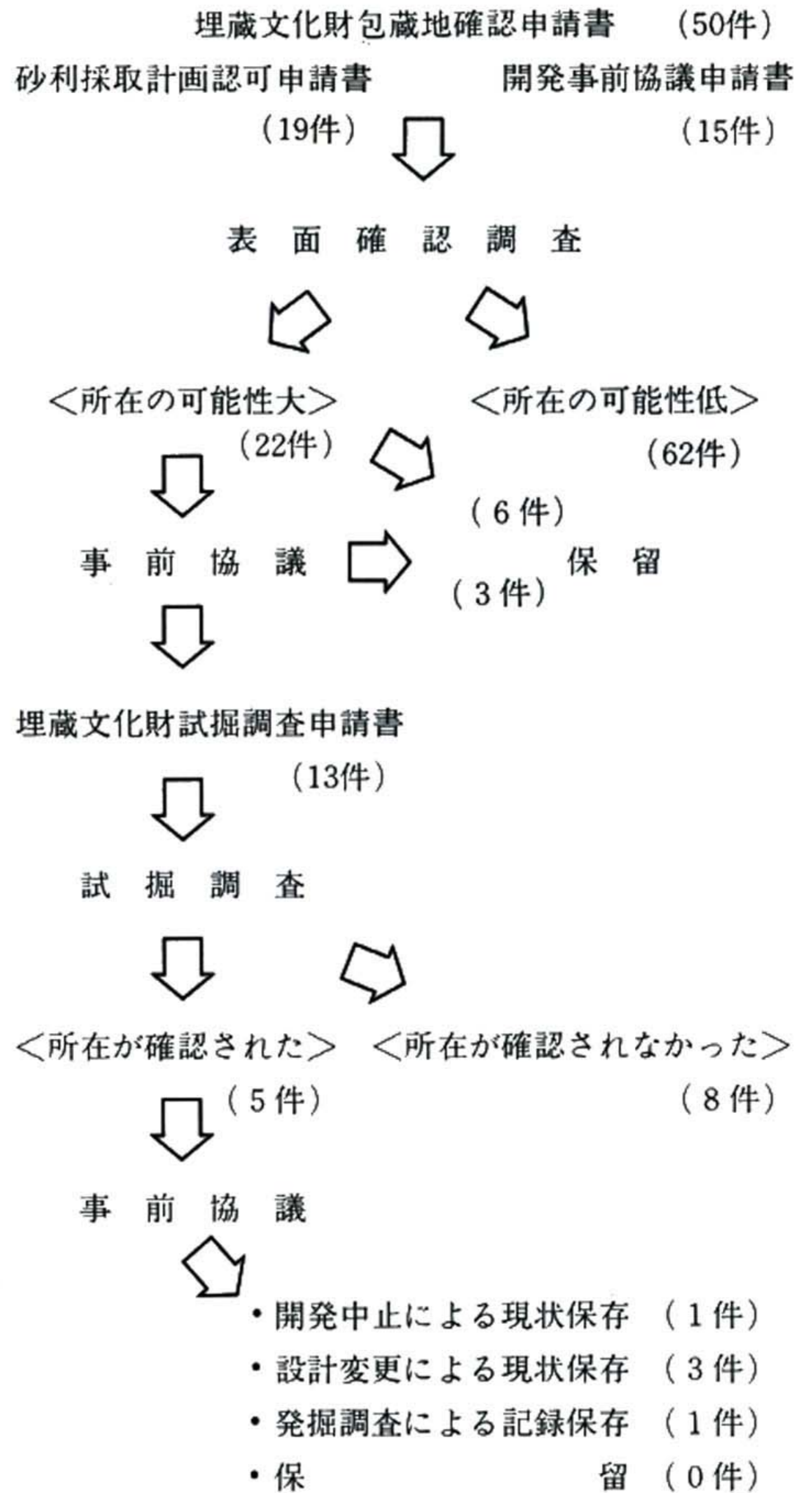
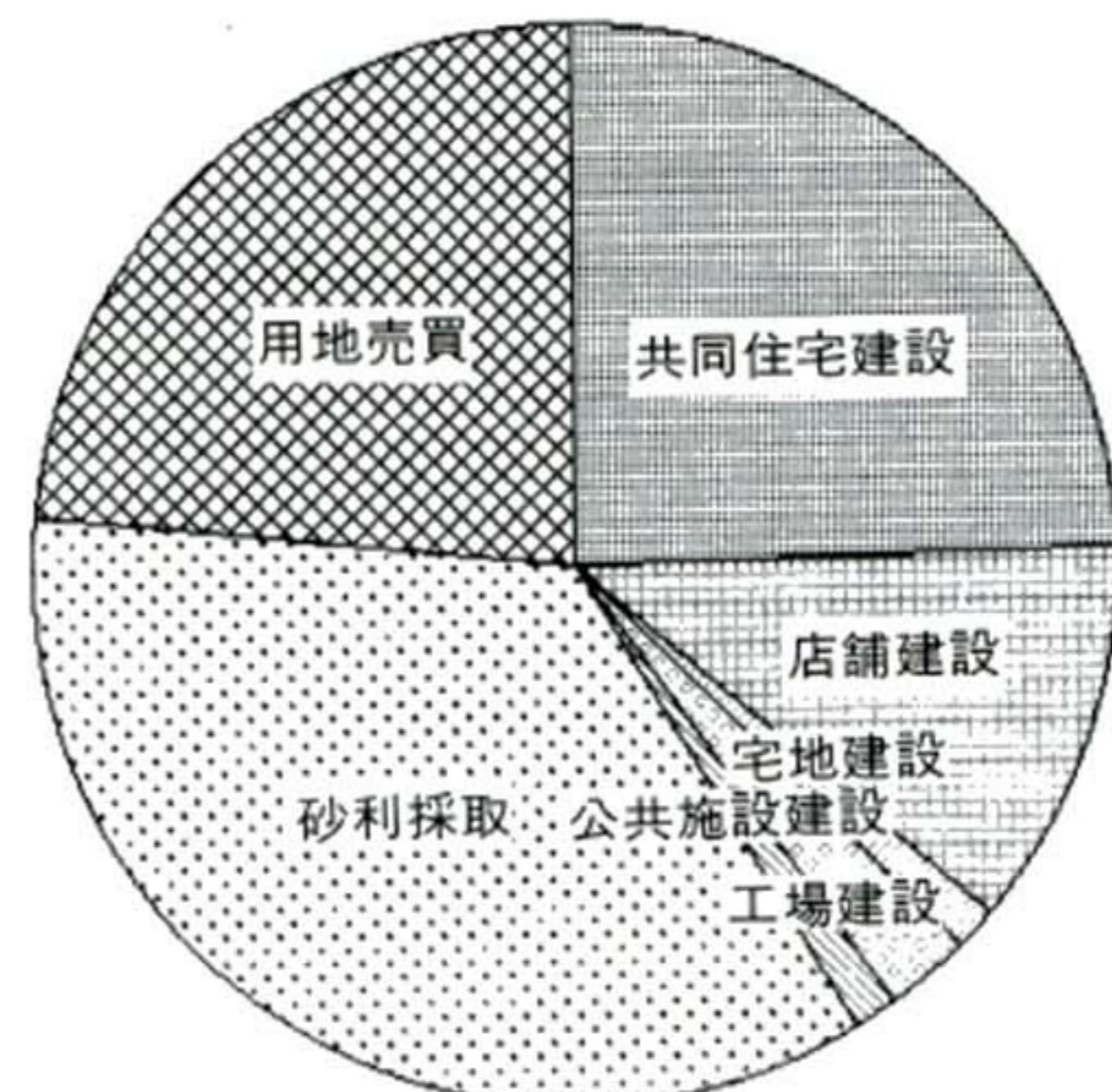


図2 埋蔵文化財包蔵地確認申請の目的別内訳





## 埋蔵文化財試掘調査

平成4年度に各務原市内で行われた試掘調査は13件ありました。そのうち5件の申請地で、住居跡などの大地に残された生活の痕跡(遺構)や、そこで使われた土器や石器などの道具(遺物)が発見され、埋蔵文化財の所在が確認されました。

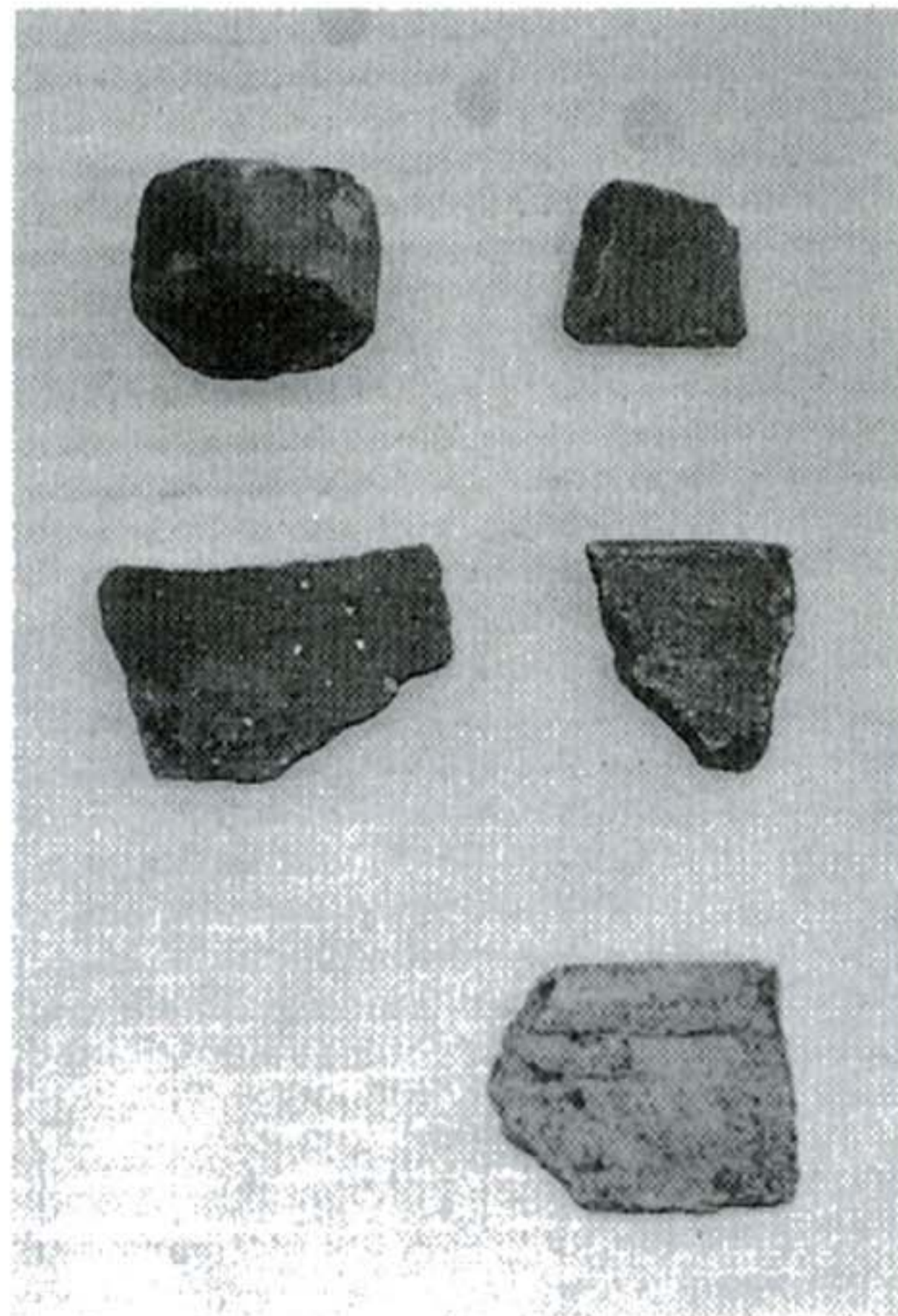
### 1. 鶯沼古市場町1丁目

- A. 開発の目的 砂利採取  
 B. 調査日 平成4年6月25日  
 C. 発見された遺物・遺構 住居跡 1基  
 須恵器等  
 D. 結果 設計変更による現状保存

### 2. 那加桐野外ニヶ所字入会地

- A. 開発の目的 店舗建設  
 B. 調査日 平成4年9月11日  
 C. 発見された遺物・遺構 住居跡 6基  
 土壇 6基、柱穴 15基  
 縄文土器、石器  
 (写真①)  
 D. 結果 設計変更による現状保存

申請地は、縄文時代の土器が散布する六軒遺跡として古くから知られていました。昭和55年には国道21号那加バイパスの工事に先立って、申請地の西において発掘調査が行われ、縄文時代中期の住居跡が発見されています。南北に走る15本のトレンチで申請地全体を調査した結果、地表面から0.8~1m下で縄文時代のものと思われる住居跡などの遺構を発見しました。住居跡にともなって、縄文時代後・晩期に特徴的な土器や土偶、信州産の黒耀石という石材を使った石器なども発見され、縄文時代の集落の存在を物語っています。

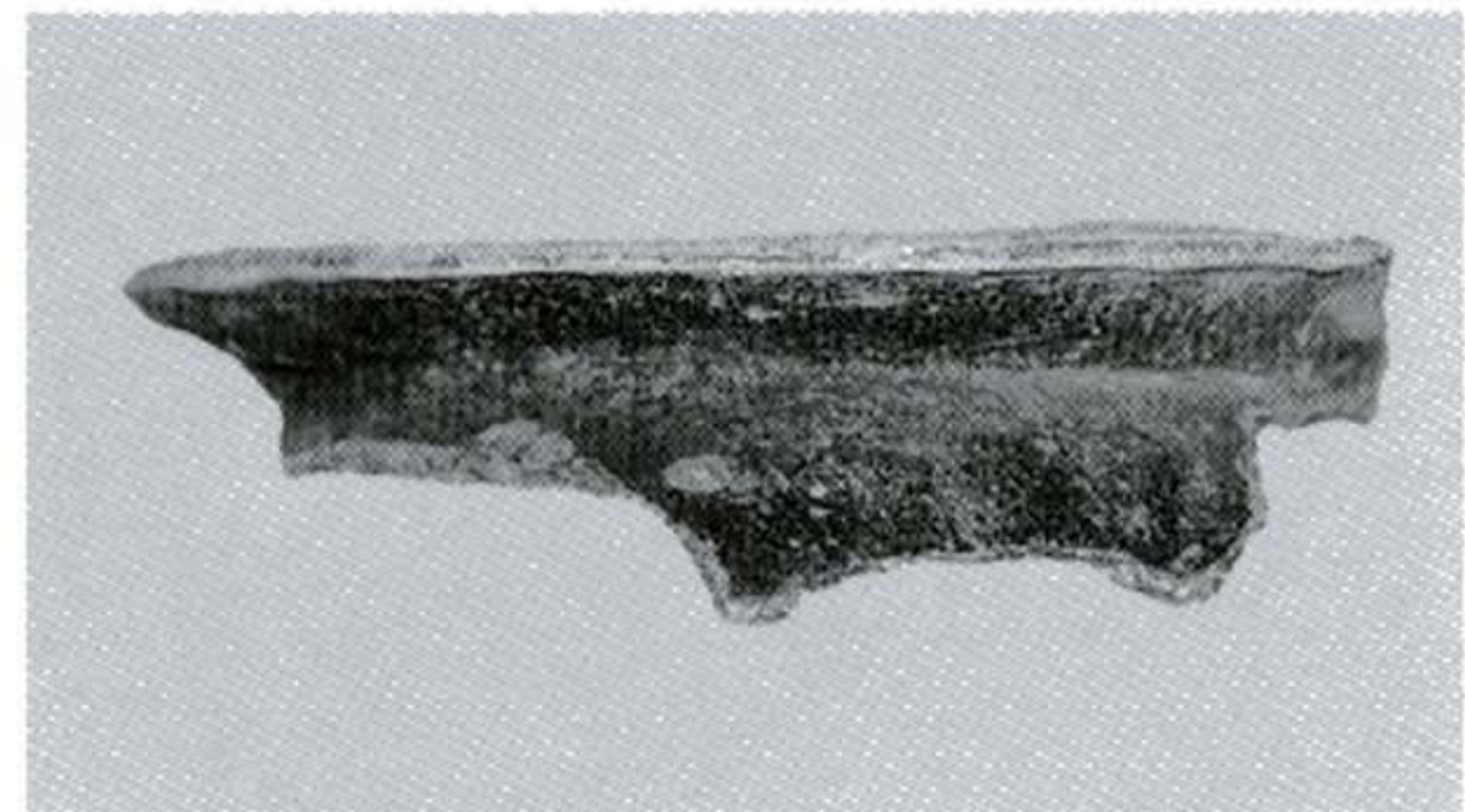


① 縄文土器

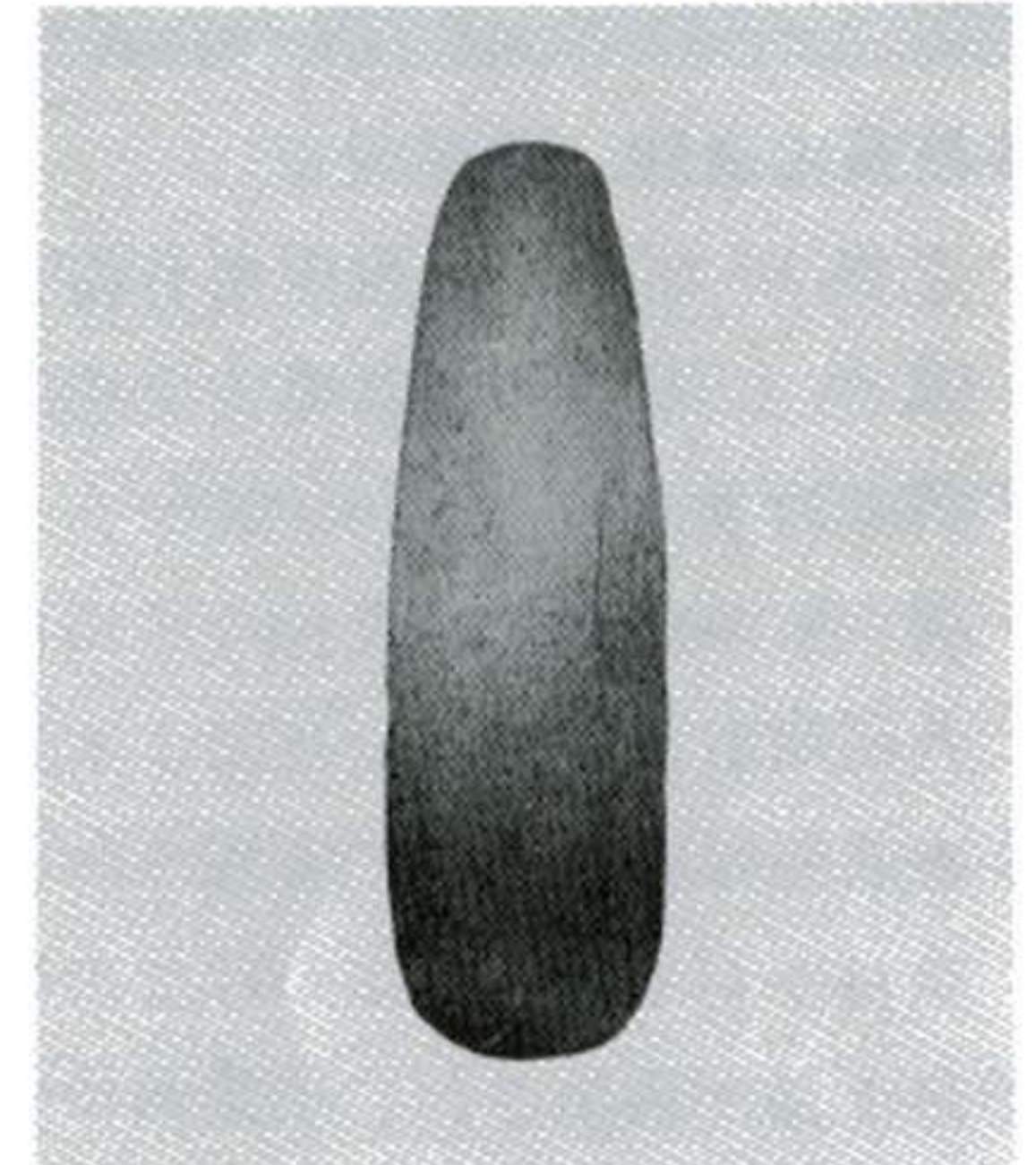
### 3. 鶯沼真名越町1丁目

- A. 開発の目的 砂利採取  
 B. 調査日 平成4年11月13日  
 C. 発見された遺物・遺構 住居跡 6基  
 土壇 1基  
 須恵器、土師器等  
 (写真②)  
 D. 結果 開発中止による現状保存

この場所では、すでに、弥生時代から中世にかけての土器や陶器が発見されており、真名越遺跡として知られていました。6基の住居跡はいずれも地表面から約1m下で見つかり、そのうちの2基からは土師器の甕や須恵器の破片も見つかっています。



↑  
② 土師器  
(甕)  
かめ



③→  
磨製石斧  
(太形蛤刃)  
ふとがたはまぐりば

### 4. 蘇原青雲町3丁目

- A. 開発の目的 宅地建設  
 B. 調査日 平成4年11月19日  
 C. 発見された遺物・遺構 住居跡 1基  
 須恵器等  
 D. 結果 設計変更による現状保存

### 5. 蘇原宮塚町2丁目

- A. 開発の目的 砂利採取  
 B. 調査日 平成5年1月8日  
 C. 発見された遺物・遺構 弥生時代の溝 2基  
 弥生土器、須恵器  
 磨製石斧(写真③)等  
 D. 結果 発掘調査による記録保存

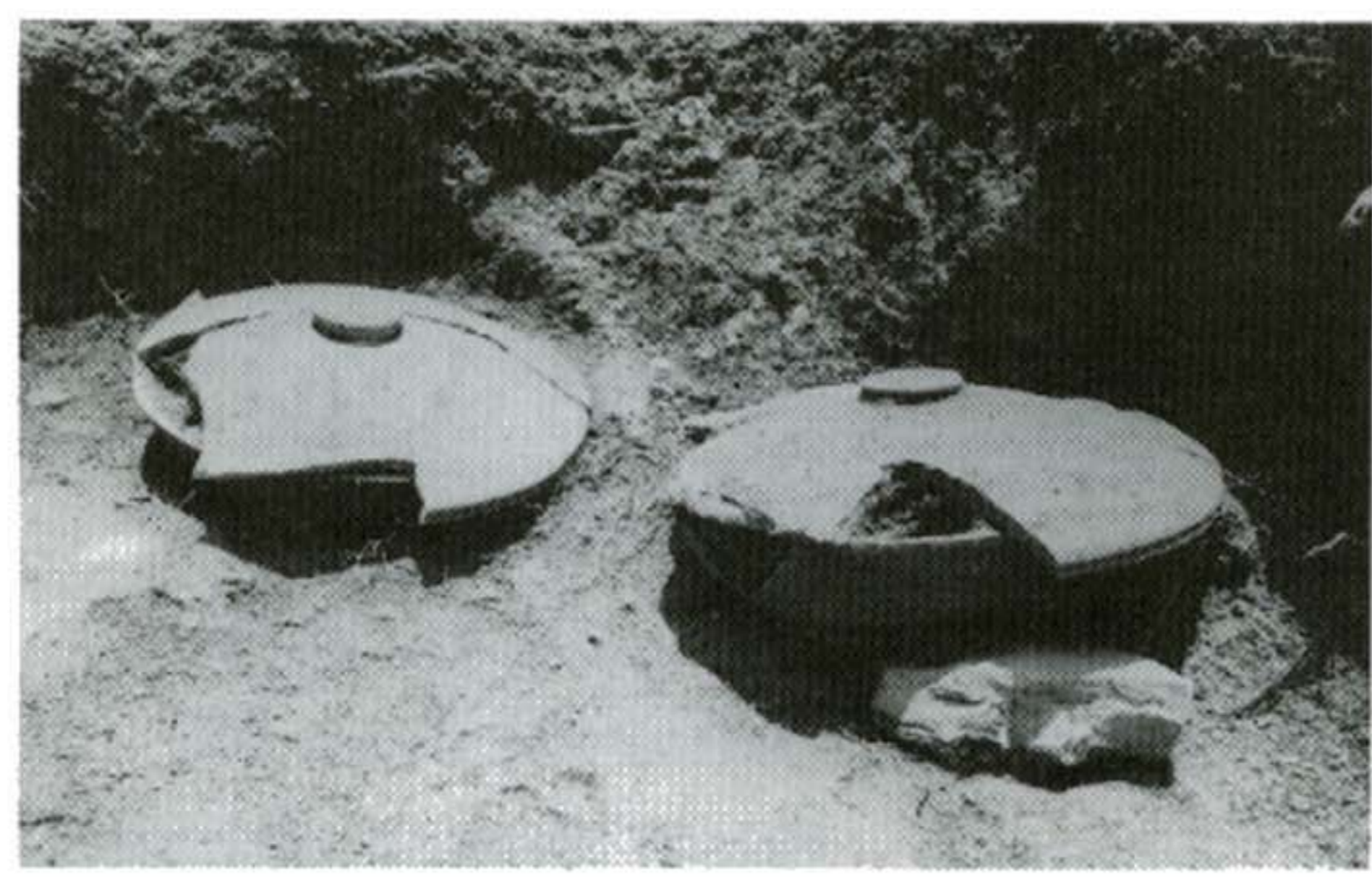


## 埋蔵文化財発掘調査

### 太田1号古窯跡 発掘調査

- ・遺跡所在地 各務原市須衛字稲田
  - ・開発主体者 各務原市
  - ・調査対象面積 約700㎡
  - ・調査期間 平成4年5月23日から6月17日
- 各務原市新ゴミ処理施設建設用地の造成工事に伴う事前発掘調査として実施されました。

過去の林道建設の際に窯の一部が露出しており、既にその存在が確認されていましたが、今回の調査では8世紀初頭の須恵器窯が4基検出されました。



### 各務東山遺跡 発掘調査

- ・遺跡所在地 各務原市各務東町5丁目
  - ・開発主体者 各務原市土地開発公社
  - ・調査対象面積 約16,000㎡
  - ・調査期間 平成4年7月15日から平成5年3月19日
- 各務原市土地開発公社による工業用地造成工事に伴う事前発掘調査として実施されました。

奈良から平安時代にかけての須恵器窯5基と灰釉陶器窯1基が検出され、須恵器や灰釉陶器の他、縄文時代の石製品や中世の五輪塔などが出土しています。2つの須恵器窯は天井が残った状態で発見され、当時の窯の構築技術を知る上で貴重な資料となりました。



### 坊の塚古墳周濠 範囲確認調査

- ・遺跡所在地 各務原市鶴沼羽場町5丁目
  - ・調査主体者 各務原市教育委員会
  - ・調査対象面積 約270㎡
  - ・調査期間 平成5年1月11日から3月19日
- 坊の塚古墳周辺には、周濠が埋没しているという指摘が以前からありました。そこで今回、その存否と範囲、及び性格を確認するために発掘調査が実施されました。

調査の結果、周濠が地盤の凝灰岩層を掘り抜いて造られていることや、周堤部分に葺石及び、土盛りの構造があることが確かめられました。



### 寒洞古窯跡群 室内整理

昭和58年、ゴルフ場コース変更工事に伴い発掘調査が行われた各務原市各務字北山所在の奈良時代の須恵器窯で、3基の窯跡からコンテナ485箱分の各種須恵器が出土しています。

本年度は、遺物の接合作業を終了しました。

### 須衛・持田遺跡群 室内整理

昭和60年から平成2年にかけて、各務原市北部住工団地造成事業に伴い発掘調査が行われた、各務原市蘇原持田町3・4丁目、須衛町2丁目所在の縄文～室町時代の遺跡で、縄文土器、石器、古墳時代の土師器、須恵器、平安時代の灰釉陶器、室町時代の懸け仏などが出土しています。

本年度は、遺物の台帳整理と集計を行いました。





### 前洞遺跡A地区 室内整理

平成3年度、株式会社自由書房の店舗新築に伴い発掘調査が行われた、各務原市那加前洞新町4丁目に所在する遺跡です。奈良時代末から平安時代にかけての集落遺跡で、16基の竪穴式住居跡などからコンテナ62箱分の須恵器、灰釉陶器の他、刀子等の鉄製品、緑釉陶器が出土しています。

本年度は、遺物の水洗・注記、遺物台帳作成、遺構図の編集、遺物の実測図作成を行いました。また、鉄器については保存処理を委託しました。

### 巾下古墳群 報告書刊行

各務原市文化財調査報告書第11号として刊行しました。B5版、本文24頁、写真図版14頁。

平成3年度、個人住宅建設にともない発掘調査が行われた各務原市那加不動丘2丁目所在の古墳時代後期の古墳で、2基の円墳から須恵器・土師器などが出土しています。

### 八龍遺跡B地区 報告書刊行

各務原市文化財調査報告書第12号として刊行しました。B5版、本文98頁、写真図版36頁。

平成3年度、有限会社オルガノによる店舗建設に伴い発掘調査が行われた各務原市鶴沼小伊木町4丁目所在の縄文～室町時代の集落遺跡で、弥生時代中期の竪穴式住居跡、古墳時代前期の住居跡各1基と縄文時代～室町時代の土坑多数が検出されました。遺物としては、縄文土器、石器、古墳時代の土師器、室町時代の山茶碗などが出土しています。

### 野口麿寺A地区 報告書刊行

各務原市文化財調査報告書第13号として刊行しました。B5版、本文28頁、写真図版11頁。

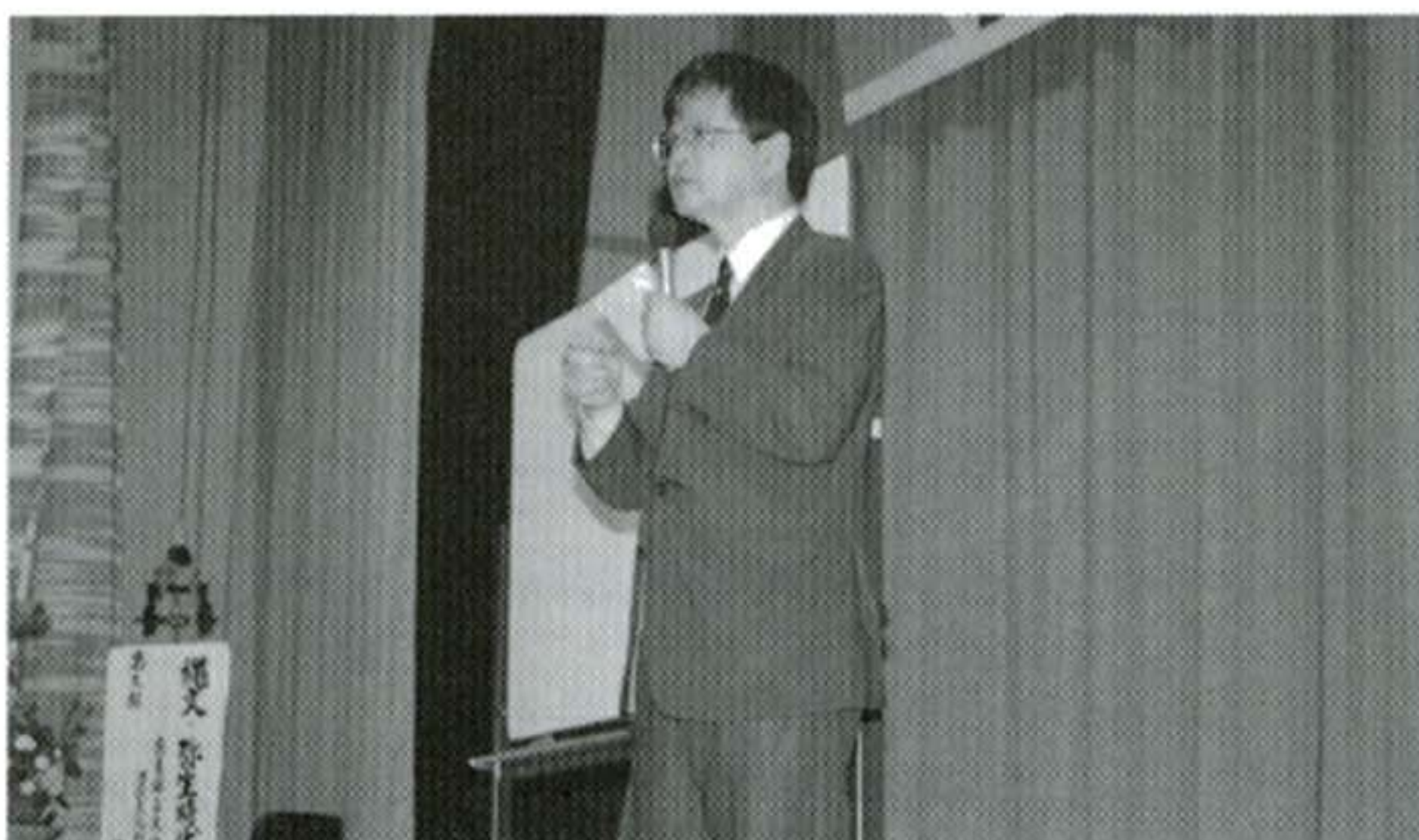
平成3年度、株式会社シンコーホームによる集合住宅建設に伴い発掘調査が行われた白鳳時代の寺院跡で、周溝状遺構、鋳造遺構、掘立柱建物跡4棟、溝状遺構、溝状遺構群などが検出されました。遺物は、瓦、須恵器、土師器、鉄釘、瓦塔、鋳型、鋳滓などがあります。

## 教育普及活動

### 第2回 埋蔵文化財保護普及啓発講演会

平成4年7月19日、各務原市立中央図書館4階視聴覚ホールにて開催し、約200名の参加がありました。

- ・内容 第1部 市内における最近の発掘調査から  
講師 当調査センター職員
- 第2部 濃尾平野と倭国大乱  
講師 (財)愛知県埋蔵文化財センター  
赤塚 次郎氏
- 第3部 縄文・弥生時代と現代  
講師 奈良国立文化財研究所  
佐原 眞氏



### 速報展と企画展

展示収蔵庫の展示替えとして、最近の発掘調査で出土した遺物の速報展示と、「美濃須衛古窯跡群とその時代」と題した企画展示を行いました。

また、委託作製を終えた、山田寺跡出土佐波理製有蓋碗、一輪山古墳出土三角縁波文帯四神二獣鏡、ふな塚古墳出土杏葉の複製品を展示しました。

### 各務東山遺跡 発掘調査現地説明会

平成5年1月24日(日)に発掘調査現場を公開しました。出土遺物の展示、パンフレット配布を行い、約150名の見学者で賑わいました。

### 坊の塚古墳周濠 範囲確認調査現地説明会

平成5年3月7日(日)に発掘調査現場を公開しました。出土遺物の展示、パンフレット配布を行い、悪天候にも関わらず約70名の見学者がありました。



現地説明会パンフレット  
センターにて無料配布中ノ

今年も多くの市民の方に、作業員として発掘調査に参加していただいています。のべ50人もの参加による各務東山遺跡の調査では作業員さんも3世代にわたっています。それぞれの世代を代表して3人の方にお話をうかがいました。

「東山遺跡が6つめの発掘現場になる」という坂井武彦さん一那加新田町(68)は、頼りになる現場のベテランです。調査に参加した6つの現場ひとつひとつに新しい発見があり、新鮮な感動があるとのこと。「発掘に参加する人との出会いも楽しみ」と長続きの秘訣を語ってくれました。

発掘調査は東山遺跡が初めてという荒川千恵子さん一鶴沼三ッ池町(40)も「毎日が楽しみ」と目を輝かせます。発掘に参加されてから、新聞やテレビの発掘関係のニュースを注意して見るようになり、視野が広がったとうれしそうです。「夏場、汗を流しての発掘は大変だけど、健康にはとっても良いんですよ」と休憩時間の話題もこっそり教えてもらいました。

足立美香子さん一各務山の前町(24)は若いながらもすでに3つの現場をこなして、作業員さんの中でも一目置かれる存在。美術関係の学校で学んだこともあって、前から発掘調査には興味があったとのこと。遠く鳥取県で行われた発掘調査の現地説明会まで出かけたという意気込みには頭が下がります。

みなさんケガのないように、今日も元気にがんばってください。



左から荒川さん、坂井さん、足立さん、東山遺跡発掘調査現場にて

#### センター日誌抄(平成4年度)

- |           |                              |         |                                         |
|-----------|------------------------------|---------|-----------------------------------------|
| 4月8日      | 岐阜教育事務所学校教育課(20名)施設見学        | 9月25日   | 八木山小家庭教育学級(30名)広報『動く市民教室』               |
| 15日       | 各務原市立陵南小学校6年生(92名)展示収蔵庫見学    | 28日     | 静岡県袋井市教育委員会(2名)視察                       |
| 15日       | 各務東山遺跡発掘調査説明会開催              | 10月6日   | 大垣市立中川小学校6年生(130名)展示収蔵庫見学               |
| 22日       | 各務原市立那加第二小学校(30名)展示収蔵庫見学     | 9日      | 中央中家庭教育学級(30名)広報『動く市民教室』                |
| 24日       | 各務原市立尾崎小学校6年生(139名)展示収蔵庫見学   | 13日     | 大阪府泉佐野市教育委員会(4名)施設視察                    |
| 5月14日     | 各務原市立那加第二小学校6年生(32名)展示収蔵庫見学  | 14日     | 岐阜県教育委員会視察                              |
| 15日       | 各務原市立稲羽東小学校6年生(68名)展示収蔵庫見学   | 20日     | 文化庁(1名)山田寺視察                            |
| 19日       | 中山道ウォーク(9名)展示収蔵庫見学           | 20日     | 緑陽中家庭教育学級(30名)広報『動く市民教室』                |
| 21日       | 各務原市立鶴沼第二小学校3年生(101名)展示収蔵庫見学 | 29日     | 海津郡平田町海西小学校(41名)展示収蔵庫見学                 |
| 26日       | 長野県岡谷市教育委員会事務局(3名)視察         | 29日     | 羽島郡小中学校教科等研究部会(30名)埋蔵文化財調査センター・各務東山遺跡見学 |
| 26日       | 岐阜県文教委員視察                    | 11月8日   | 図書館体験講座(18名)施設見学                        |
| 26日       | 太田1号古窯跡発掘調査開始                | 11日     | 一般市民(30名)広報『動く市民教室』                     |
| 28日       | 三重県津市文化課(1名)視察               | 17日     | 福井県敦賀市職員(13名)視察                         |
| 6月17日     | 太田1号古窯跡発掘調査終了                | 25日     | 各務原市立那加第二小学校6年生(33名)展示収蔵庫見学             |
| 18日       | 各務原市自治会連合会役員(30名)広報市内視察研修    | 26日     | 那加桜町1自治会(30名)広報『動く市民教室』各務東山遺跡見学         |
| 24日       | 羽島郡小中学校視聴覚部会(13名)見学          | 1月11日   | 各務東山遺跡現場始め                              |
| 26日       | 可児市文化財審議会・郷土館運営協議会(17名)視察    | 11日     | 坊の塚古墳周濠範囲確認調査開始                         |
| 7月1日      | 各務原市立鶴沼第一小学校3年生(107名)展示収蔵庫見学 | 24日     | 各務東山遺跡発掘調査現地説明会                         |
| 15日       | 各務東山遺跡発掘調査開始                 | 25日~26日 | 富山大学理学部地球科学教室教授広岡公夫氏各務東山熱残留磁気測定         |
| 19日       | 第2回埋蔵文化財保護普及啓発講演会開催          | 27日     | 岐阜地区市民生活協同組合機関紙『虹の輪』取材                  |
| 23日       | 埼玉県大宮市教育委員会(5名)視察            | 28日     | 名古屋市博物館 梶山 勝氏                           |
| 8月22日     | 福井県敦賀市婦人会(19名)視察             | 2月26日   | (財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター(3名)視察            |
| 23日       | 名古屋市博物館主催『歴史教室』(112名)見学      | 3月7日    | 坊の塚古墳周濠範囲確認調査現地説明会                      |
| 25日       | 名古屋市博物館主催『歴史教室』(112名)見学      | 17日     | 東京都埋蔵文化財センター(1名)視察                      |
| 27日       | 愛知県尾西市歴史民俗資料館 資料貸出し          | 19日     | 坊の塚古墳周濠範囲確認調査終了                         |
| 9月16日~19日 | 岐阜放送『あなたの街から』撮影              | 19日     | 各務東山遺跡発掘調査終了                            |



### 各務原市文化財調査報告書刊行案内

各務原市埋蔵文化財調査センターでは、下記の文献を刊行・配布しております。

1号『炉畑遺跡発掘報告書』残部僅少 5,000円(送料380円)  
縄文時代中期～晩期にかけての集落遺跡。咲畑式土器、里木式系土器。加曾利E式系土器などが多数出土。

3号『三井遺跡・六軒遺跡』 5,000円(送料380円)  
奈良時代～中世にかけての住居址45基の集落遺跡と縄文時代中期の住居址2基の集落遺跡。美濃国刻印入須恵器を含む多数の遺物が出土。

5号『半ノ木洞古墳発掘調査報告書』 1,500円(送料310円)  
古墳時代後期に属する古墳で高坏型器台須恵器や蓋坏などの須恵器多数と大刀・鉄鍬などの鉄製品・勾玉・管玉などの玉類が出土。

8号『八龍遺跡A地区発掘調査報告書』 1,500円(送料310円)  
古墳時代前期の住居址2基と中世の鍛冶工房址2基を中心とした複合遺跡。尾張地方独特のS字状口縁台付甕や土師器、山茶碗が多数出土。

9号『西洞山古墳群発掘調査報告書』 2,000円(送料310円)  
古墳時代後期の群集墳4基の発掘調査で、土師器、須恵器や銅製耳環・管玉・土製ねり玉等の装身具、鉄鍬・直刀等の鉄製品、馬具などが多数出土。

10号『北山遺跡A地区発掘調査報告書』 2,600円(送料240円)  
近世に属すると思われる整地面や溝状遺構、石垣状遺構が検出され、陶磁器多数と常滑焼大甕、山茶碗などが出土。

11号『巾下古墳群発掘調査報告書』 1,200円(送料240円)  
古墳時代後期の群集墳2基の発掘調査で、平瓶、横瓶、高坏等の須恵器と土師器甕が出土。

### 編集後記

センターが発足して1年と9ヵ月が経ちました。当市の埋蔵文化財行政は、それ以前から目を見はる歴史をもっており、県内の市町村で真っ先に「センター」の設立が叶うにいたりしました。今、その基礎の上に立って、「センター」の歩むべき道を模索し、将来へ大きな期待を寄せています。(所長 三瓶準一)

センター職員の平均年齢はなんと33歳です。年度初めに2名の職員が新規採用でスタッフに加わり、ますます若返りました。来年度もこの勢いで、新鮮で柔軟性に富んだ発想に期待します。(所長補佐 斎藤文彦)

本年度の事業で印象に残るのは、やはり講演会です。ご多忙中、講師のお願いをご快諾下さった佐原、赤塚両氏に深く感謝いたしております。(主事 磯谷祐子)

何故かセンターの若手調査員は皆、出身高校が同じ。偶然とはいえ、過去も現在も大切な縁。仲良く、力を合わせて、未来へ躍進！(学芸主事 西村勝広)

本当の豊かさを模索する時代です。私達は、いったい何処に向かって進んでいるのでしょうか。考えさせられる佐原先生の講演でした。(学芸主事 大熊茂弘)

夏の暑さと冬の厳しい寒さの中で、東山遺跡の発掘調査をお手伝い下さった作業員の皆様、この場を借りて深く御礼申し上げます。(学芸主事 伊藤 昭)

先日、何気なく開いたセンター案内パンフに、1年前の事務室を発見！。部屋の成長ぶりに感心したり、反省したり…。(社会教育指導員 丹羽真由美)

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 創刊号

<平成5年3月>

編集 各務原市埋蔵文化財調査センター

発行 〒504 岐阜県各務原市那加門前町3丁目1-3

TEL0583(83)1123 FAX0583(71)1145

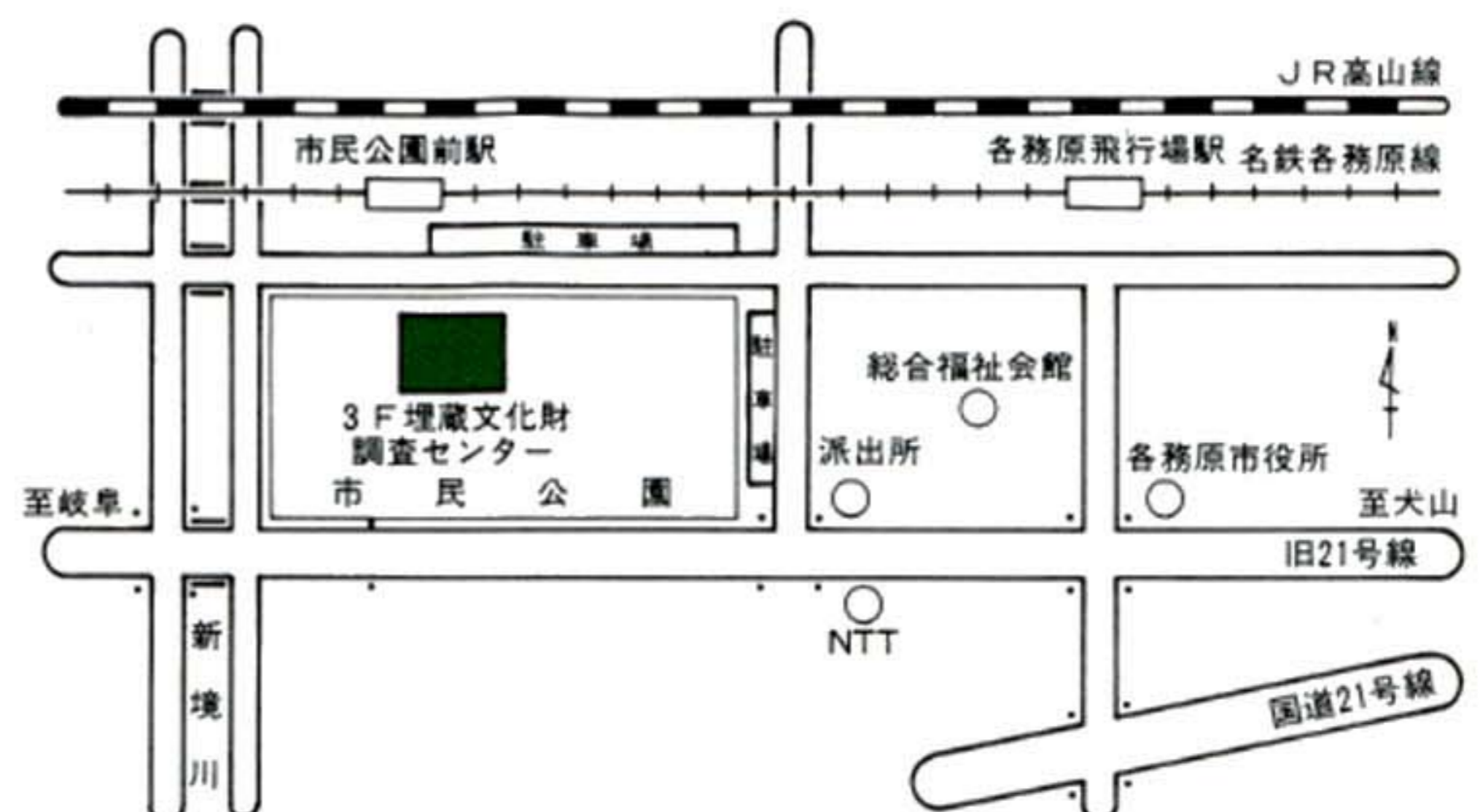
### <埋蔵文化財調査センターのご案内>

◇開館時間：午前10：00～午後5：00

◇休館日：毎週月曜日・祝日・年末年始

◇入場料：無料・展示収蔵庫を常時公開  
ビデオ放映・パンフレット配布

◇交通：名鉄各務原線市民公園前下車徒歩1分





## 埋蔵文化財探訪 第1回

古墳とは土を盛り上げて造った特別なお墓のことですが、4世紀から7世紀後半までの約400年の間に全国的に造られました。ここ各務原市においても、例外ではなく、かつては600基以上の古墳が存在していたといわれています。しかしその多くは山林開発、宅地造成、土地改良事業などの大きな開発によって破壊または消滅し、現在残っている古墳の数は150基ほどです。今回はその市内に所在する古墳の中から、鶉沼地区の古墳を探訪してみようと思います。

各務原市を東西に横断する国道21号線を那加方面から東方へ向い、鶉沼羽場町の坂を下る途中左手に見える雑木林が現在県の史跡に指定されている坊の塚古墳です。



坊の塚古墳

坊の塚古墳は鶉沼羽場町5丁目に所在し、全長120m、後円部直径72m、同高さ10m、前方部最大幅66m、同高さ7.8mの前方後円墳で、規模としては大垣市の昼飯大塚古墳に続いて県下第2位の規模を誇ります。墳丘に登り、後円部中央に行くと盗掘痕のような落ちこみがあります。その部分が当時この地域一帯を支配していた権力者の葬られていたところだと思われています。この古墳からは琴柱形石製品や勾玉、円筒埴輪などが出土しています。周囲を歩いてまわると前方部の裾に葺石の列が確認できます。またこの古墳を取り巻く周濠について詳しいことは今まではっきりわかりませんが、今年度行われた周濠部の範囲確認調査によって、周濠、周堤の施設が確認され、およそその規模や築造方法がわかりました。

坊の塚古墳の北東約300mのところの旧中山道沿いに空安寺があります。そのお寺の東側の盛り上がったような雑木林は衣裳塚古墳です。ここも坊の塚と同じく県の史跡に指定されており、鶉沼羽場町2丁目に所

## 鶉沼地区の古墳 Part I



衣裳塚古墳

在しています。直径53m、高さ7mの規模を有する円墳で、円墳としては県下最大です。現在まで発掘調査は行われておらず、出土品も確認されていない不明な部分の多い古墳です。東と西と南側の三方を削られており、北側以外は原形を留めていませんが、削られ具合からして前方後円墳であったとの説もあります。

衣裳塚古墳から南東約150m行ったところに一輪山古墳と呼ばれる古墳がありましたが、昭和初期の開墾により消滅しました。一輪山古墳の規模は直径約9m、高さ2mの小さな円墳であったといわれています。一説には直径約20~28mあったともいわれています。出土遺物としては三角縁波紋帯四神二獣鏡が伝わっており、現在市の重要文化財に指定されています。この三角縁神獣鏡は邪馬台国論争のもとになっている史料、『魏志倭人伝』中の記述「銅鏡百枚」に当たるのではないかの説があるものです。また、一輪山の鏡の同範鏡（同じ鋳型からつくられた鏡）が島根県松江市の八日山1号墳からも出土しています。

この一輪山古墳から出土した三角縁神獣鏡の複製品は埋蔵文化財調査センターの展示収蔵庫にて展示しています。ぜひご覧ください。

